

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075000168		
法人名	有限会社 日新商会		
事業所名	グループホーム みずまき		
所在地	〒807-0046 福岡県遠賀郡水巻町吉田西3丁目15番11号 093-202-8142		
自己評価作成日	平成25年09月10日	評価結果確定日	平成25年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前の系列病院による24時間健康管理体制が出来ている。職員全体のチームワークがよく、家族との関係も良好でいつも笑い声が絶えないグループホームです。
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みずまき」は、JR東水巻駅に近くで利便性に恵まれ、民家改造の木造2階建てのグループホームである。開設11年の歴史は、認知症福祉事業の拠点として、地域から信頼され、地域の一員として、各種行事に利用者と職員が参加し、活発な交流が始まっている。道路の向かい側に、系列医療機関があり、24時間の医療連携が確立し、栄養士が立てたメニューにより、栄養バランスが摂れた、美味しい料理と合わせ、利用者の健康管理は万全である。ホーム独自の理念「ありのままにあなたに寄り添う」を職員全員が理解し、利用者本位の介護サービスを提供し、家族の評価は高いものがあり、利用者、家族、ホームの信頼の絆に結び付いている。また、職員の離職も少なく、介護技術の高い職員が多く、困難事例もチーム介護で解決し、職員同士の信頼関係も構築されている、グループホーム「みずまき」である。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 25年10月16日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に寄り添うことを理念としミーティングやその時々話している。また、理念を名札の裏に記入し、いつでも確認出来るようにしている。	ホーム独自の理念を掲示し、職員の名札の裏にも記入し、管理者は、事ある毎に理念について説明し、職員全員に浸透し、常に理念を意識して、家族や地域に支えられ、「安心と、安らぎのある生活の支援」を利用者一人ひとりに合わせて、取り組んでいる。	
2	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板の閲覧や秋祭りの子供みこしをホームの前で見せてもらっている。	町内会に加入し、開設11年目を迎え、利用者職員は、地域の一員として地域行事に参加し、秋祭りの子供神輿がホームに立ち寄り等、地域交流の輪が少しずつ広がっている。また、地域住民からの介護相談や、空き情報の問い合わせがあり、解決に向けて取り組み、地域との信頼に繋げている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望等相談される方に対して現在困っていることや状況などを尋ね空きが無い場合は他施設の紹介やアドバイスを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告などを行い意見交換をしている。	会議は、2ヶ月毎に開催し、ホームの現状や取り組み、避難訓練の内容や課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報提供やアドバイス等が出され、有意義な会議である。出された意見や要望は、関係者で検討し、ホーム運営に反映できるように努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい情報交換やアドバイスをしてもらっている。	管理者は、疑問点や困難事例等を、行政担当窓口を訪ねて相談し、情報交換を行い協力関係を築いている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情や課題を理解してもらい連携を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険が及ぶときや不穏状態が続き人手が足りなくなるときの家族の了解を得て一時的に行うことがあるが出来る限り拘束をしないように取り組んでいる。	身体拘束廃止の研修会や勉強会を通じて、職員全員に身体拘束が、利用者に与える影響を理解した上で、言葉かけや対応に付いて、職員間で話し合い、注意し合っ身体拘束をしないケアを実践している。また過去に、利用者の不穏な状態が続き、生命の危険を感じたので、家族の承諾を得て一時的に対応したこともある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に研修を行い身体的な虐待だけでなく言葉による暴力についても皆で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるので身近な問題として研修を行っている。	現在、該当者がいるので、職員は、成年後見制度の重要性を理解し、勉強会を開き、職員一人ひとりが知識を得て、利用者や家族が制度を必要とする時には、制度の仕組みを説明し、申請手続きの方法や関係機関の窓口を紹介できる体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心がけ疑問点を尋ねて理解してもらっている。退去時は十分に話し合い必要な支援を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談・意見箱の設置や運営推進会議・面会時など近況報告を行い意見交換を行っている。また、行政の苦情相談窓口がわかりやすいように重要事項説明書への記入や入り口にポスターを掲示している。	面会や行事参加の時に、家族と話し合い、利用者の健康状態やホームでの暮らし振りを報告し、意見や要望を聴き取っている。また、玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示し、利用者や家族が、安心して意見や要望、苦情等を出しやすい環境を整えている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や就労のなかで意見を聞く機会を設けよいものは取り入れ即時実行に移している。	職員会議を毎月開催し、カンファレンスを兼ねて実施し、職員が意見を出しやすい環境の中で、活発な会議となっている。また、毎日の申し送り時に、職員が気付いた事を発表し、出された意見や要望が、ホーム運営に反映されるように努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働けるように資格手当がある。また、定時終業するように指導している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して経験や資格・年齢より働く意欲を重視している。得意なことが生かせるよう主体的に行ってもらったり研修に参加するときは勤務調整を行っている。	職員の募集は、人柄や高齢者に対する思いを優先し、年齢や性別、資格等は制限しないで採用している。職員の能力を活かせる勤務体制や希望休等、柔軟に対応し、資格取得の支援体制も整っている。また、職員の外部研修や、スキルアップ研修に取り組み、職員の介護技術の向上を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営理念に取り組み日々の就労やミーティング時に研修を行っている。	外部研修会に参加した職員が、勉強会で報告し、利用者の人権を守るための介護をどのように提供していくかを、職員間で話し合い、利用者に対する言葉かけや介護の方法等、利用者一人ひとりに合わせた介護の実践を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促したりミーティング時に研修を行い研修報告書を用いて皆に伝わるようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し情報交換を行っている。今年度より行政を仲介し地域のグループホームとの交流を行うようにしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りは難しいので家族を交えながら生活歴や心身の状況を伺うようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、説明をおこなう中で困っていることや現在の状況を詳しく尋ね、力になれるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を詳しく聞いたうえで必要なサービスを利用できるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみなど出来ることを一緒に行い懐かしい歌や思い出話などをして日々の生活を送っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や食事の介助・話し相手など家族が望むことをしていただき共に支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	母体が病院なのでかかりつけ医だった利用者が多く受診に行く知り合いの方がたくさん来ていて声掛けにとでも喜ばれている。	利用者が今まで培ってきた、友人、知人、親戚等の大切な関係を、継続していくための支援に取り組んでいる。また、買い物や外食、病院受診等、利用者の希望を家族と相談し、協力を得て同行してもらう等、馴染みの人や場所との関係が、途切れないように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や歌を歌うなど共有する場面を多く持つように努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に母体への入院退去が多いため時々、面会に行ったり家族と会えば話をしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で表情や言動などで思いを引き出したり、行動などの観察を行い希望に添えるように努めている。	センター方式のアセスメントを活用し、職員は、利用者との会話の中から本音を聴き取り、記録に残して職員全員で共有し、思いや意向の把握に努めている。意向表出の困難な利用者には、表情や仕草、過去の介護記録等から、利用者の思いや希望に近づくように努力している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に詳しく尋ね生活歴がわかるようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で有する力を理解し能力に応じて活動が出来るように努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や会話の中で課題を見つけたり家族の面会時に情報交換している。また病状の変化に合わせて介護計画の見直しを行っている。	家族の面会時に、職員が利用者の健康状態や生活状況を報告し、家族の要望や意見を聴き取り、カンファレンスを開き、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化時には、家族と連絡を取り合い、主治医の意見を参考にし、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や実践記録をつけスタッフ全員が共有できるように申し送りを行い介護計画を作成している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である病院への受診介助をおこなっている。またスタッフが手薄になる午後は通院リハビリのある方は母体である病院から送迎をおこなってもらっている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやドラッグストア・コンビニが近くにあるので一緒に買い物に行っている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に母体である病院をかかりつけ医とされている方が多く家族の軽減も含め適切な医療を受けられるようにしている。	入居前から利用者は、系列医療法人を、かかりつけ医にしている方が大半で、馴染みの主治医による受診は、利用者の穏やかな暮らしに結びついている。職員の気付きと適切な判断で、道路を隔てた系列医療法人の看護師と連携し、相談しながらアドバイスをもらい、早期対応で、安心して任せられる医療連携が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置していないので母体である病院の看護師に相談したり協力してもらっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院なので情報交換を密に行い早期退院に向けて協力してもらっている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を配置していないので医師の指示に従い出来る限りホームで暮らしていただいています。病状が悪化しホームでの生活が困難な場合は入院となります。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族に説明し、ホームで出来る重度化の支援について理解を得ている。利用者の重度化が進み、ホームでの生活が困難な状態になった時は、主治医の説明で、入院について家族に理解してもらい、安心出来る終末期の医療と介護の体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急手当の訓練をおこなっている。	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域への声掛けをおこなっている。ミーティング時に研修や訓練を行い年に2～3回避難訓練を実施している。特に夜間を想定した訓練に力を入れるようにしている。	避難訓練は、消防署の協力と指導を得て、年2～3回実施し、特に、夜間想定避難訓練には真剣に取り組む、利用者を安全な避難場所に誘導できる体制を確保している。また、スプリンクラーを設置し、通報装置や消火器の使用方法を確認し、災害対策に取り組んでいる。	
<b>、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強い口調や大きな声での声掛けなどは避け否定しないような声掛けを行うよう心がけている。	職員は、利用者の尊厳を守り、大きな声での誘導や人前であからさまに介護したり、利用者本人を傷つけないように、プライドや羞恥心に配慮し、利用者本位の介護の実践に取り組んでいる。また、個人記録は、人目につかない場所で保管し、職員の守秘義務は、事あるごとに管理者が説明し、職員全員が理解している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物など選べるようにしたり好きな装いをしてもらっている。	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切に柔軟に対応している。	/	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎回、同じ美容師に来てもらい馴染みの関係を作りながらカットなど希望に添えるようにしている。	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食後の茶碗拭きなど能力に合わせて十分な力が発揮できるようにしている。	利用者の楽しみの一つである食事は、栄養バランスを考えて、彩り、味、盛り付け、形状等配慮し、利用者と職員が、同じテーブルに座り、会話のある楽しい食事風景である。また、利用者の残存能力を考慮し、盛り付けや茶碗拭き等を手伝ってもらい、存在感のある暮らしの支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体である病院の栄養士作成の献立を食し水分量が不足しないように工夫しながら摂取できるようにしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいなど口腔ケアの声掛けや介助を行い夕食後は義歯を預かり消毒している。訪問歯科が必要な方は利用されている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難や失敗が多くても尿意のある方は時間を把握しながらトイレの声掛けや誘導を行っている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、トイレでの排泄の支援をしている。また、職員は、利用者の声掛けには、他の利用者には聞こえないように耳元で話し、利用者のプライドや、羞恥心に配慮しながら、トイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ばず影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分を多く取れるように心がけ、出来るだけ自然に排便できるようにしている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めているが個々の身体状況やニーズに合わせて楽しんで入浴出来るよう入浴日を変更したり、できるだけ希望に沿うようにしている。	入浴は、曜日を決めているが、利用者の健康状態や、その日の気分に合わせて、日時の変更や、時間を調整し、楽しい入浴になるように取り組んでいる。また、入浴拒否の利用者には、職員が交代で声掛けや、気分を変えたりして、利用者の自己決定による入浴支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせてカーテンや明かりなど夜に向けて雰囲気作りを行ったり室温調節をしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を確認し用法や副作用についても理解できるようにしている。変化の兆候を見逃さないように努めいつでも確認できるよう個人ファイルに綴じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に歌ったり外出の好きな方には散歩に誘ったり個々に合った支援を心がけている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子介助の方が多く個別にお花見などに誘っている。	利用者の重度化が進み、全員での外出は困難であるが、車いすの利用者にも、戸外に出かけてもらい、季節を五感で感じ取ってもらうように支援している。病院受診や散歩、買い物やドライブ等、外出の支援が、利用者の気分転換と、生きがいのある暮らしに繋がるように支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族の要望もあり金銭所持は行っていない。持っていないと不安な方には所持してもらっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様や家族が希望されれば電話を取り次いだり手紙の受け渡しも行っている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓やカーテンの開閉を採光の具合を見ながら行い日めくりカレンダーを使用している。時々季節の花をテーブルに飾ることもある。	民家改造の家庭的な環境の中で、利用者が一日の大半を過ごす、リビングルームは、生花や飾り物を、季節に合わせて飾りつけ、生活感や季節感を感じながら、利用者同士の楽しい会話が弾み、居心地の良い共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体状況や相性なども考慮し自分の居場所として過ごせるように工夫している。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や写真を持ち込んでいただき自宅に近い雰囲気でも過ごしてもらっている。	利用者の自宅で使用していた、家具や布団、テレビや家族の写真等、家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が自宅と違和感を感じない暮らしの支援が、出来るように工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口に「便所」と大きな文字で張り紙をしたり居室には目印となるよう目の高さの表札や居室がわかりづらい方には目印を付けている。		